

校名：宇都宮大学教育学部附属幼稚園

所在地：〒320-8538 栃木県宇都宮市松原1丁目7-38 電話番号：028-622-9051

記載日：2016年5月20日 記載者：五十嵐 市郎 記載者役職：副園長

本園の校（園）風、おおまかな特色について：

○保護者との共育をめざし、行事や園環境等一緒に作り上げることが多い。
子どもの自主性・主体性を重んじ、「ひと」「もの」「文化」を教育課程の中心にすえている。

特に「もの」とのかかわりにおいては子どもの発達に応じた教材開発を心がけている。

幼稚園の教育目標

1. しんぼう強くがんばりのきく子ども
2. 心豊かでのびのびと活動する子ども
3. 人の話をよく聞き、自分の考えも話せる子ども
4. 自然や物を大切に作る子ども

を掲げ、子ども主体の保育を日々展開している。

本園の卒業生の活躍状況について：

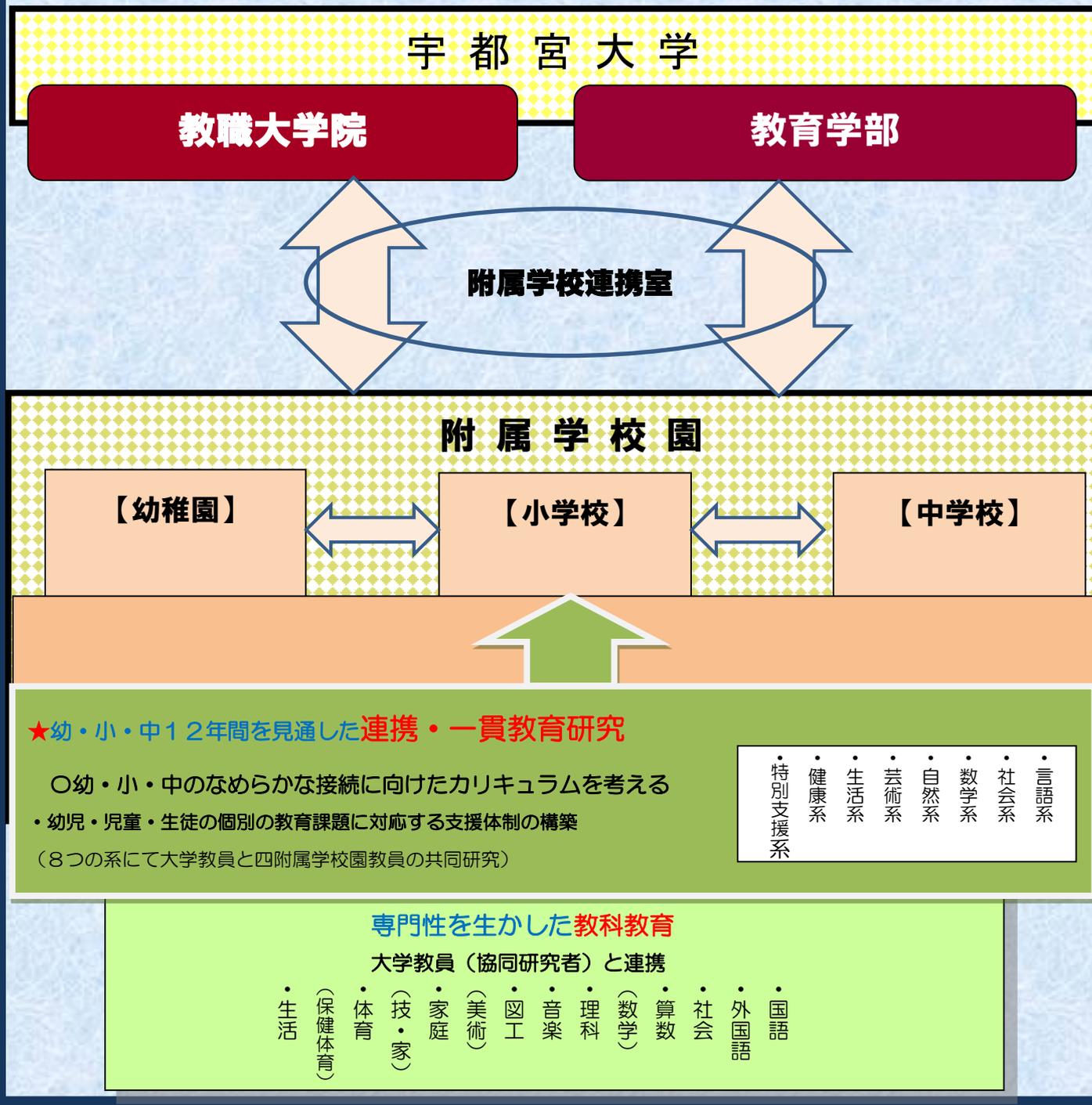
○卒園生のほとんどは附属小学校への連絡入学であるが入学以降の追跡はしていない。

本園勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 追跡調査・・・名簿の管理はしている。数年に1度名簿の整理をするときに勤務先等確認している程度。
- ② 現職については把握している。退職された後については勤務時の住所のみの把握。
- ③ ほとんどの教員が20代後半から30代前半で着任し、2～5年の経験で異動していくので交流人事が始まって以来、校長職2名、指導主事2名、あとは一般教員として活躍中
- ④ 幼稚園を離れた後は異動先の学校において幼小の連携を担ったり、生活・総合の「教科指導員」となって地区小学校で行われる教育委員会の「訪問事業」の一翼を担ったりしている。また、幼児教育の専門家として幼小連携のアドバイザーとして小学校と幼稚園・保育所をつなぐ役割を担っている。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

★大学と連携した幼小中連携・一貫教育研究



- 大学と連携し幼小中の連携・一貫教育の推進を行っている。
- 教科を中心とした7つの系分かれ、滑らかな接続に向けたカリキュラムを考える。
(交互乗り入れ授業や保育の実施)
- 特別支援系では個別の教育課題に対応する特別支援体制の構築を目指す。
- 幼小の接続に関して交流・連携の体制作りを目指し、教職員の資質向上、家庭や地域社会との連携・協力について考察を深めていく。

★地域と連携した先導的な取り組み



地域・社会への貢献

～幼児教育の指導的な役割と子育て支援～

教員の指導力の向上に貢献

- ・公開研究発表会
- ・保育を語る会開催年4～5回
- ・新規採用教員研修会会場園（講師）
- ・教職経験10年目研、教職5年目研会場園（講師）
- ・各種研修・講座の講師、指導助言 等



地域の幼児教育力の向上に貢献

- ・県、市町教育委員会と連携／協力
- ・県内全国公私立幼稚園（こども園）が加盟する栃木県幼稚園連合会の研究を先導。
- ・保育所の教員に対する研修の場の提供。

子育て支援に貢献

- ・未就園児親子教室の開催
- ・教育、育児相談
- ・子育てについての講演会講師 等



- 国公立幼稚園が少ない栃木県の実情を反映し、幼稚園教諭・認定こども園保育教諭の新規採用教員研修や5年目研修、10年経験者研修などの研修会や幼児教育及び生活科担当指導主事研修会等の保育の公開を全て引き受け教員の指導力の向上に貢献している。
- 県内全ての国公立幼稚園・認定こども園が加盟する日本唯一の組織、「栃木県幼稚園連合会」に加盟し、研究・研修部門の研究委員や講師を担当し先導的役割を担うなど、地域の教育力の向上に貢献している。（公開研究会に際しては研究補助費として予算措置在り）
- 地域の家庭教育支援員（栃木県家庭教育オピニオンリーダー）の助力を受け、地域の子育て支援（2歳児親子）として遊びの指導、保護者の子育ての悩み相談等場を設けるなどし、成長発達の道筋を示し安心した子育て環境の醸成に寄与するなど子育て支援に貢献している。

地域において、現在、本園はどのような存在であると考えているか：

○ 地域の教育力向上において

栃木県の幼稚園の現況については現在192の幼稚園・認定こども園があるが、国公立は5園しかない。その中で、県内国公私全ての幼稚園・認定こども園、新規採用教員研修会の保育公開会場園として毎年保育を公開したり、幼児教育及び生活科担当指導主事研修会の会場となったり、5年目研修会、10年経験者研修会の会場として保育を公開したり、県教育委員会主催の現職教員研修会（保育公開、講演を含む）を一手に引き受けるなど関係が良好であり、県内幼稚園の研究を実質的にリードする存在である。

また、栃木県幼稚園連合会（県内192園加入）の各委員会では常に「教育研究委員会」に所属し、最新の幼児教育の動向について話題提供したり、コーディネーターとして研究会を主催したりしており、こちらも情報の発信源となったり、研究の中心にいる。

附属学校の存在意義、本園の存在意義について：

○ 附属学校の存在意義

特に幼児教育に関していえば、幼稚園教育要領に最も準拠した教育を行っているのは附属幼稚園ではないかと自負している。また、教育要領改訂の材料となる「研究開発」や「委託研究」などは実践と理論とを合わせ持ち成果を上げているのではないか。その点でも附属幼稚園の存在意義はあると考える。

○ 本園の存在意義

研修・研究については、地域の幼児教育の先導的役割を果たしている。本園が無くなると幼児教育の「教育的・研究的」部分を伝えていく幼稚園がなくなるかもしれないという危機感を抱いている。その点でも栃木県の幼児教育界をリードする本園の存在意義は高いと考える。また、これに関しては大学教員と連携し幼稚園だけでなく「就学前教育」を見越した教材の作成や、研究成果の発信など幼大連携を取り入れた地域発信を行っている。

その他、地域の幼児教育関連施設等からの依頼を受け大学教員の紹介や附属間のネットワークを生かし、講師の派遣や教育、遊び等の専門家の紹介を行うなど、様々な分野でコーディネーター的な役割を果たすこともあり信頼を得ている。

